

**令和2年度 指定管理者
事業評価 報告書**

(よこはま動物園、野毛山動物園・野毛山公園及び
金沢動物園・金沢自然公園)

令和3年8月

横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会

1 評価対象

対象施設	指定管理者	指定期間
よこはま動物園	公益財団法人 横浜市緑の協会	H28. 4～R8. 3
野毛山動物園及び野毛山公園		
金沢動物園及び金沢自然公園		

2 評価方法

評価は、令和3年6月及び7月に調査員（環境創造局動物園課職員）と評点員（環境創造局公園緑地管理課）が基本協定書、事業計画書、仕様書、維持管理基本水準書、年度実施協定書及び年度実施計画書等に基づき書類の審査、ヒアリング、現地確認等を実施した結果を本委員会で審査しました。

また、指定管理者の取組姿勢について、本委員会で直接、指定管理者にヒアリングを実施し、採点を行いました。そのうえで、調査員・評点員の採点及び本委員会での採点を合わせ、評価を決定しました。

3 事業評価経過

(1) 調査員・評点員による採点（ヒアリング・現地調査含）

よこはま動物園 : 令和3年6月24日（木）、28日（月）

野毛山動物園 : 令和3年6月25日（金）、29日（火）

金沢動物園 : 令和3年6月22日（火）、30日（水）

協会本部 : 令和3年7月5日（月）

(2) 横浜市立動物園等指定管理者選定評価委員会

令和3年7月28日（水）

調査員・評点員による採点結果検討

指定管理者へのヒアリング、評価審査

4 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 名簿（敬称略）

委員長：小宮 輝之〔元恩賜上野動物園長〕

委員：浅井 紀代子〔税理士、さくら共同会計事務所代表社員〕

委員：齊藤 毅憲〔横浜市立大学名誉教授〕

委員：佐渡友 陽一〔帝京科学大学講師、市民Z00ネットワーク代表理事〕

委員：間曾 さちこ〔株式会社かなん代表、元財団法人自然環境研究センター上席研究員〕

5 評価結果

採点点数	全体 (%)	評価
481.5 点 / 600 点	80.25%	A

【参考】評価に関する点数の考え方については、次のとおり

S評価	90%～100% (概ね 540 点～600 点)	極めて優秀 (要求水準を大きく上回る)
A評価	80%～89% (概ね 480 点～539 点)	優秀 (要求水準を上回る)
B評価	60%～79% (概ね 360 点～479 点)	良好 (要求水準の下限を保持)
C評価	59%～ (概ね 359 点以下)	不良 (要求水準の下限を満たさない)

6 全体講評

令和2年度は、横浜市立動物園における指定管理者制度の第3期目となり、10年間の指定管理期間の5年目でした。今回の事業評価の結果、コロナ禍という厳しい条件の中ではありますが優秀な取組もあり、全体としては良好な管理運営が行われていたものと認められます。

今期から、3つの目標（入園者数、国際的な繁殖計画への参画・連携、環境学習）を掲げて業務に取り組んでいます。令和2年度の入園者数については、新型コロナウイルス対策による約2か月の閉園などの影響もあり残念ながら目標に対して大幅な減となりましたが、閉園期間の入園者数を過去実績とした場合、閉園期間の努力が非常に見える入園者数となっていました。新たな生活様式に対応するべく、ユーザーに響く動物園の魅力を改めて分析し、継続して発信し続けることと、入園制限がかかりにくい平日を中心とした集客が確保できるようなアイデアや運営の工夫を指定管理者には引き続き期待します。

国際的な繁殖計画への参画・連携については目標達成をしており、これまでの参画・連携状況や過去に締結した協定や関係機関との協力関係などを踏まえ、協会としての能力を十二分に発揮できるよう、本部と3園が一体となり横断的な取組を強化するよう引き続き期待します。

環境学習については、みなとみらい地区のビジネスパーソン向けに実施したことを評価します。今後も来園者の様々なニーズに合わせて内容の改善を図るとともに、経営資源として戦略的に検討、改善に注力することを期待します。

管理運営全般では、来園者要望を改善に結びつけられ、安定した執行が図られています。

維持管理業務では、引き続き来園者が快適、安全に利用できるよう適切な維持管理を続けることに加え、展示場の魅力アップにつながる改修と効果的なPRを組み合わせるなど、潜在的寄附者ともなりうるリピーター確保に戦略的に取り組むことを期待します。

人材育成については、2年連続で動物逸走未遂を発生させましたが、他園の事故事例を分析した研修が業務に活きるよう、現場でもフォローし合う取組を強く求めます。今後の動物園運営の核となる人材を育成するための体系的な研修計画を策定・実施することを引き続き求めます。

飼育管理全般について、動物福祉の観点からハズバンドリートレーニングやエンリッチメントを実施した様々な取組については一昨年度に引き続き評価します。また、ツシマヤマネコの人工繁殖やヘサキリクガメの継続的な孵化などの実績などについて評価します。

今後も課題の適切な分析と対応を継続しつつ、10年間の指定管理期間という長期的な視点のもと、残る5年で達成すべき目標やプライオリティを明確にし、戦略的に日々公益を実現し、来園者に対して引き続き安心・安全な動物園運営を提供していくことを期待します。

7 委員会所見

1 飼育・繁殖に対する取組

- ・ツシマヤマネコの腹腔鏡を用いた人工授精の成功を評価する。(よこはま)
- ・ヘサキリクガメの継続的繁殖(繁殖技術の継承ができています)を評価する。(野毛山)
- ・ミヤコカナヘビ、アマミトゲネズミ、ツシマヤマネコ等国内動物の保全の推進を評価する。(3園)
- ・金沢動物園では、特に地域の動物の保全に力を入れることを希望する。

2 調査・研究に対する取組

- ・エンリッチメント大賞(敢闘賞)受賞を評価する。(金沢)
- ・Zoo Biology への投稿、掲載その他論文の投稿を評価する。(よこはま、金沢)
- ・コロナ禍でも3園で42題の成果報告したことを評価し、成果を論文投稿することを期待する。(3園)
- ・地元の域内保全に役立つ域外保全へのチャレンジをして底辺を広げること希望する。

3 環境教育に対する取組

- ・「進化の学校」のような社会人、企業向けの環境教育イベントの取組を評価する。(よこはま)
- ・コロナ禍で臨機応変にリモート授業等の対応をしたことを評価する。ただし、この結果をしっかりと考察して次の展開につなげることを希望する。(3園)
- ・SDGs、環境保全をテーマにした企業・一般向けのプログラムを積極的に広げていくべき。(3園)
- ・横浜の自然に特化したプログラムにも取り組むべき(3園)で、特に地元の動物の保全(ミヤマクワガタ等)で継続しているものも上手に情報発信をすべき。(金沢)

4 利用者サービスの向上及び利用者増に向けた取組

- ・インターネット予約システムを無償で導入したことを評価する。(よこはま)
- ・自撮り撮影台を設置し、積極的な来園者の思い出づくりを提供していることを評価する。(金沢)
- ・新たな来園層獲得に向けたSNSでの発信について評価する。(3園)

5 人材育成に対する取組

- ・3園の獣医師が連携して、腹腔鏡の人工繁殖技術向上等に努めた結果、ツシマヤマネコの人工繁殖成功につながったことを非常に評価する。(よこはま、他2園)
 - ・他園で発生した重大インシデントや死亡事故などの事例を分析し、独自の職員研修としたことを評価した。(調整課)
 - ・日動水の福祉規定改定に当たって、福祉部会員として積極的にかかわったことを評価した。(調整課)
- ※経験年数の浅い飼育職員への研修プログラムの充実や、専門分野ごとの研修プログラムなど、体系的な研修計画の策定、実施を検討、提示すること。(継続指摘事項)

6 事業効果を高める取組

- ・(公財)横浜市芸術文化振興財団と共催した「進化の学校」では、(公社)日本インダストリアルデザイン協会理事長の太刀川英輔氏を招へいし、みなとみらい地区の企業に対して自然環境に関する研修を村田園長以下動物園の知見を組み合わせ実施したことを非常に高く評価する。(よこはま)
- ・ツシマヤマネコの誕生の取材依頼、掲載、放映に際し、生態や保全につながる内容を意識して発信し、

動物だけでなく、園の取り組みや姿勢を効果的に広報したことを評価する。(よこはま)

- ・直営売店の委託化、クラウドファンディングや園内募金箱、アニマルペアレント等の動物園の価値を高め、かつ多様な財源確保等の実績が向上したことを評価する。(3園、本部)
- ・パーム油不使用の新規土産の販売並びに売り上げをボルネオ島の環境保全に寄附するなどの一連の活動を評価した。(本部)

※戦略的な組織体制のもと3動物園が有機的に連携した動物園運営の効果を示すこと。(継続指摘事項)